

2016年度調査研究事業
女性の労働に関する調査研究事業
シングル女性の仕事と暮らしのニーズ調査
(中間報告)

一般財団法人とよなか男女共同参画推進財団

女性の労働に関する調査研究事業研究会

2017年3月31日

1. 経緯

これまでの調査研究をふまえて新たな課題へ

調査研究事業は、一貫して「女性の就労」をテーマにしてきました。これまでシングルマザーおよび結婚や出産等で一度離職した女性の再就職支援をテーマにし、一定の成果を得ました。

女性の就労支援は、豊中市男女共同参画計画でも重点的に取り組む施策の一つであり、指定管理事業の重点課題でもあります。そのため、今年度のテーマも女性の就労という大枠は継続させつつ、女性の再就職以外のテーマも含めて検討しました。

テーマの検討は、近年すてっぷで取り組んでいる事業、そして女性労働に関する報道や近年の書籍などの先行研究から問題点をピックアップしながら行いました。

＜すてっぷの事業＞ 若年女性支援事業／生活困窮者自立支援事業／女性の再就職支援事業

＜女性労働問題＞ 非正規雇用の問題／貧困や格差の問題（単身女性・シングルマザー）／過去の就業問題が現在に及ぼす影響／女性と家族との関係による問題／年代別の問題（若年・中年・高齢者）

近年の事業から感じる課題

①雇用形態だけで判断できない生きづらさ

若年女性支援事業は「毎日がしんどい女子のため」と広報したので、無職や非正規の人の参加を当初想定していました。しかし、実施してみると正規雇用の人の参加も一定数あり、雇用形態だけで生きづらさを区分できないことに気づきました。また、事業に参加した人から見えてきた課題として、他者とのコミュニケーションが上手く取れない、自己肯定感が持ちづらい、悲観的な思い込みや決めつけが強いなどを自らの生きづらさと認識している点が挙げられます。

②日常生活も含めた問題把握の必要性

生活困窮者自立支援事業の講座に参加した女性は、様々な理由を抱えているため就労から遠い位置にいるように見受けられました。例えば、過去の就業で受けた精神的ダメージが続いている、職業経験に乏しい、家族以外の人との関係がなく新たな人間関係をつくるきっかけもないなどです。就労へとステップアップするには、それ以前に規則正しい食事や睡眠などの生活自立や他者との関わりによる社会参加が基盤になり、就労だけでなく日常生活にも視点を広げて問題を把握することが必要です。

③支援が就労に結びついていても大多数がパート雇用

女性の再就職支援事業や生活困窮者自立支援事業の講座生で就職が決まった人の大多数が、パート雇用です。非正規雇用も就労への最初の一步ではありますが、その不安定さゆえ経済的自立という課題は残ります。

年齢階級に分けて課題を明らかにする～豊中市の現状から

豊中市が行った調査（「女性と男性がともに暮らしやすい豊中市をつくるためのアンケート」平成27（2015）年9月）によると、「妻や子を養うのは、男性の責任である」という項目に対して「そう思う＋どちらかといえばそう思う」と回答したのは、男性79.2%、女性60.3%でした。このように固定的な性別役割分業意識が高いと、女性は親や夫に扶養されることが前提となり、経済的自立

の必要性を周囲も女性自身も強く感じることはできません。その結果、多くの女性は経済的に頼れる存在の親や夫を失った途端、自らの生活を維持できず貧困問題に直面することになります。

豊中市では、高齢女性の単身世帯比率が増加傾向にあります。その多くは既婚者で 60 代以降に夫との死別によって単身になった人たちです。また、離婚する女性が 40 代以降で増えています。高齢単身女性は高齢福祉、シングルマザーは母子福祉と福祉支援の対象です。若年中年で子どももいない独身女性も、収入状況等によって生活が困窮すれば福祉支援（例：生活保護）の対象になります。しかし、現時点では福祉支援を必要としていない場合や福祉支援が必要でも相談に行きにくいなど、福祉との接点に乏しいのが現状です。

晩婚化や生涯未婚率の増加によって、30 代以降の未婚女性割合が増加しています。彼女たちが独身のままで年齢を重ねれば、これまでとは異なる背景の高齢単身女性が増え、新たな課題が生じることが予測されます。

そこで、シングル女性の中で未婚女性に注目し、25～39 歳と 40～54 歳の年齢階級に分けて、課題を明らかにするための仕事と暮らしのニーズ調査を行うことに決めました。

2. 女性の労働に関する調査研究事業研究会

1) 趣旨および目的

若年女性事業等で気づいた問題をより具体的に把握するために、シングル女性の仕事と暮らしのニーズについての課題発見型の調査を行う。

調査結果から、課題を広く共有するような今後の事業企画や豊中市への問題提起にもつなげる。

2) メンバー

古久保さくら（大阪市立大学準教授）

とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ

林誠子（理事長）、西村寿子（事務局長）、梅山雅子（相談主任）、

小河洋子（講座主任・事務局）、藤長恵子（事務局）

3) 実施期間

2016 年度～2017 年度

4) 実施状況

		実施日時	議題など
2016 年度	第 1 回	2016/12/19(月) 10 : 00～12 : 00	報告…『「非正規・シングル・子なし・中年女性」の取材を通して」 花房吾早子（朝日新聞記者） 協議…調査目的、調査方法とその進め方、スケジュールの検討
	第 2 回	2017/2/20(月) 14 : 00～16 : 00	協議…調査内容の確認 …アンケート調査の調査票の項目を先行研究から検討 …「若年女性のケイパビリティの形成と社会的包摂のあり方

			に関する研究」チームとの調査協力や共同調査についての検討
	第3回	2017/3/18(土) 13:30～15:35	協議…調査方法の見直し …新たな調査プランの検討

5) 調査テーマ

「シングル女性の仕事と暮らしのニーズ調査」

6) 調査方法の検討

当初の調査方法はアンケート調査としていたが、見直しを検討した結果、グループインタビュー調査で実施する。

アンケート調査…個人ではなく層としての状況把握に適している

…課題は一定の回答数、結果の分析方法、有意義な結果が得られるか不明

インタビュー調査…内容を詳細に確認することができる

…課題は調査協力者の設定、結果の分析方法

7) 先行研究一覧＜別紙参照＞

- ・参考文献一覧（図書）
- ・シングル女性の先行研究（情報提供系・抜粋）／女性と貧困の先行研究（事例系・抜粋）
- ・先行調査一覧（雑誌・報告書・インターネット）
- ・シングル女性の先行研究（調査・抜粋）

8) 附属資料＜別紙参照＞

- ・すてっぷON！ Vol.14 花房吾早子さんの記事
- ・2016年度主催講座チラシ 毎日がしんどい女子の気持ちを伝えるミニレッスン
- ・2016年度主催講座チラシ 毎日がしんどい女子のアロマでリラックス
- ・2016年度主催講座チラシ おとな女子服交換会運営メンバー募集

注) 上記チラシの「対象」の記載を、2017年度は「39歳くらいまでの子どものない独身女性」という表現に変更しています。

■参考文献一覧(図書)

	タイトル	著者	出版社	発行年	すてつぶ 所蔵
シングル女性	大人女子の安心シングル ライフプラン	じゃこめていsingle life 編集部	じゃこめてい出版	2016	×
	未婚当然時代：シングルたちの“絆”のゆくえ	にらさわあきこ	ポプラ新書；090	2016	×
	おひとり様のふたり暮らし	スタジオクゥ // 著	イースト・プレス	2015	○
	「家族」難民：生涯未婚率25%社会の衝撃	山田昌弘	朝日新聞出版	2014	○
	ルポ介護独身	山村基毅	新潮新書；574	2014	○
	“ガールズ”自立支援ハンドブック	横浜市男女共同参画推進協会／編	全国女性会館協議会	2012	○
	幸せになるためのシングル女性の人生設計	日本経済新聞生活経済部／編	日本経済新聞出版社	2010	○
	おひとりさまのイエローページ	和泉 昭子／文	メディアファクトリー	2009	○
女性と貧困	ルポ 貧困女子	飯島裕子	岩波新書	2016	○
	貧困女子のリアル	沢木 文	小学館新書	2016	○
	ここまで進んだ！格差と貧困	稲葉 剛 // 著	新日本出版社	2016	○
	下層化する女性たち	小杉 礼子 // 編著	勁草書房	2015	○
	女性と子どもの貧困	樋田 敦子 // 著	大和書房	2015	○
	高卒女性の12年	杉田 真衣 // 著	大月書店	2015	○
	女性たちの貧困	NHK「女性の貧困」取材班 // 著	幻冬舎	2014	○
	貧困のなかでおとなになる	中塚 久美子 // 著	かもがわ出版	2012	○

■シングル女性の先行研究(情報提供系)・一部内容抜粋■

タイトル	著者	実施年	視点・切り口
幸せになるためのシングル女性の人生設計	日本経済新聞生活経済部／編	2010	・マネープラン ・住まい ・医療と介護 ・パートナー ・私の老後
おひとりさまのイエローページ	和泉 昭子／文	2009	・収入確保 ・住まい ・体のメンテナンス ・貯蓄 ・親との関係(介護) ・余暇

■女性と貧困の先行研究(事例系)・一部内容抜粋■

タイトル	著者	実施年	視点・切り口
ルポ 貧困女子	飯島裕子	2016	・アラフォー ・非正規 ・シングルの女性
貧困女子のリアル	沢木 文	2016	・30代 ・大卒、短大卒 ・女性 ・インタビュー (11のエピソードとして事例紹介) お金で買えないものの資源(愛情や文化、キャリア)が薄いと何かに依存して結果的に貧困になる可能性が高い
高卒女性の12年	杉田 真衣 // 著	2015	・30代 ・高卒 ・女性 ・インタビュー (4人に高校卒業後12年間の労働と生活の移り変わり) 精神的な不安定さと体調不良経験から仕事を継続させる働き方のスタイル獲得プロセス 仕事の優先順位の変化(収入から長期的な働き方へ) 自分自身を肯定できる生き方を経済的合理性以上に優先する場合がある(行動原理を経済的な困窮度だけで捉えるのは一面的) 自覚的ではないものの、ゆるやかに維持され続けている高校時代の人間関係と地域と階層文化が重なる年上の人たちの見守りによる自分たちの社会の形

■先行調査一覧(雑誌・報告書・インターネット)

タイトル	著者・調査者	調査 実施年	URL など
「非正規職シングル女性の社会的支援に向けたニーズ調査」報告書【概要版】	(公財)横浜市男女共同参画推進協会、(一財)大阪市男女共同参画のまち創生協会、福岡女子大学教授	2015	http://www.women.city.yokohama.jp/chousa/hiseikichousa0905.pdf
20代から40代の働く未婚女性に聞いた「仕事観・人生観・ライフプラン」に関する調査	メットライフ生命保険株式会社	2014	http://www.metlife.co.jp/about/press/2014/pdf/140821.pdf
若年女性の就業意識等に関する調査結果報告書(資料No.147)	大阪府商工労働部(大阪産業経済リサーチセンター)	2014	http://www.pref.osaka.lg.jp/attach/1949/00051733/147_jyakunenjyosei_full.pdf#search='%E5%A4%A7%E9%98%AA%E5%BA%9C+%E8%8B%A5%E5%B9%B4%E5%A5%B3%E6%80%A7+%E8%AA%BF%E6%9F%BB'
シェア居住に対する意識とその構造: 単身女性及び娘を持つ母親を対象とするアンケート調査から	樋野 公宏.		雑誌名 都市住宅学 = Urban housing sciences / 都市住宅学会編集委員会 編. 巻号・年月日 (87): 2014. Aut. ページ 110-114
単身女性の自立支援と社会サービスの課題	喜勢 昌枝		東洋大学大学院紀要. 巻号・年月日 38 (社会学研究科) 2001 ページ 399~412

■シングル女性の先行研究(調査)・一部内容抜粋■

タイトル	調査者	調査対象者	実施年	調査方法	結果
「非正規シングル女性の社会的支援に向けたニーズ調査」	・横浜市男女共同参画推進協会 ・大阪市男女共同参画のまち創生協会 ・福岡女子大学 野依智子	・非正規 ・35～54歳	2014	ヒアリング調査(7件)	・6割が“不本意非正規” ・世代間格差(35～39・45～54) ・“低収入”と“雇用継続”の二大困難 ・ジェンダー規範の圧力を受ける(結婚して当たり前・家族のケア役割期待)
			2015	Webアンケート(261件)	
				グループインタビュー(5回)	
『大人女子の安心シングルライフプラン』(図書)	じゃこめてい single life 編集部	・30～60代	—	インタビュー(15人)	・収支を赤字にしない節約と収入アップ&スキルアップ ・親の介護 ・住まい選びと住まい方 ・老後の備え ・規範の圧力を受ける(結婚して当たり前・家族のケア役割期待)
			2015	ネットアンケート(140人)	
『未婚当然時代ーシングルたちの“絆”のゆくえ』(図書)	にらさわあきこ	・30～50代 ・未婚男女	2015年5月～2016年2月	インタビュー(のべ100人)	・しっかりと生活している社会人でありながら「会社に属さず、家族もいない、近所の人もわからない」と不安を訴える未婚者の男女 ・多くの人が「家族以外の絆はつくれる」と答えている ・“絆”をつくり上げるためには「一緒にいる時間をもつこと」「対話をする」「話を聞くこと」など「空間を共有する」時間をつくるのが大事と言う人も多い ・ツイッターには、空間を超えて「同じ志向」を持つ人を見つけやすくしてくれる面があり、その後の交流でつながりが強固になる ・私たちが信用できるのは、今現在から「続いていく」「継続した」先にある未来のみ(「遮断された」「先にある未来」は信じられない) ・自分の中に「絆がある」と確信を持つことが出来れば(心の中に愛情を注ぐ<日常的な関わり・思いを寄せる>対象を持ち続けることができるならば)、人は強く生きていくことができるのではないか。この境地に至るには、「日々の行動の積み重ねる」しかない
「20代から40代の働く未婚女性に聞いた「仕事観・人生観・ライフプラン」に関する調査	ライフメット生命保険株式会社	・20代～40代 ・有職者(年収300万円以上)かつ医療保険加入者	2014	Webアンケート(600人)	・現状の幸せ度は「普通(47.3%)」「幸せ(39.8%)」 ・将来の不安は「老後の生活(27.7%)」と「結婚できるかどうか(18.2%)」 ・将来に不安を感じたきっかけ「親の老いを感じたとき(32.7%)」

「若年女性の就業意識等に関する調査結果報告書」	大阪府商工労働部	・女子学生	2014	アンケート (345人)	①就労前から、若年女性の労働意欲が低いわけではない。 ②大多数は「卒業後は正社員で働く」というのが当然のこととして認識されているが、働き続けるかどうかについては意見が分かれる。 ③しかし「なぜ正社員か」について、深く考察していないケースも散見された。 ④労働意欲が低い人の特徴として「将来よりも今が大事」「子供のことを考えれば女性は働かない方が良い」「専業主婦であるほうが女性として幸せ」「働くスキルに自信がない」「対人コミュニケーション面で自信がない」と考えている。
				インタビュー (5グループ37人)	⑤「こうあるべきだ」と直接言われたことはないにせよ、両親の姿をみて就業観が形成されているケースが多かった。ただし、両親だけが就業観の原点ではない。 ⑥能力面での不安と人間関係面での不安が多く聞かれた。 ⑦学生が3歳時点、6歳時点において、当時、家計が豊かでなく、母親が正規労働以外の働き方で働いていた場合において、学生の労働意欲が低い。また、対人関係に関する不安を持っている学生の方が、労働意欲は低かった。
		・18～34歳 ・積極的求職者(就業意欲があり、かつ求職に向けて行動している者)		アンケート (302人)	①働かなくても良いと思っている人は1人もおらず、現在、未就業であることの要因を、過去の自身の甘さであると認識しているケースが多かった ②現在の求職活動を厳しいと感じているが、半年以内に仕事を見つけられると考える人が多い(半年以内に決めたいという意思の現れともとれる)
				インタビュー (32人)	③働くことについて、親よりも、友人や過去に働いた職場の人、兄弟姉妹など、同世代と思われる人の影響を受けるケースが多数 ④ほとんどの回答者が能力面で、過半数の回答者が対人関係で自信がないと回答インタビューでも、程度の差はあるにせよ、働かなくても良いと思っている人はひとりもいなかった。
		・18～34歳 ・無職(消極的求職者)		アンケート (271人)	・生活への不安も能力への不安も最後の職の状況の影響を受ける。 ・消極的求職者については生活への不安が大きく、積極的求職者については能力への不安が大きかった。 ・積極的求職者であれ消極的求職者であれ、学卒後の職業経験が非常に重要な要素であることは間違いない。 ・健康への不安に過去の仕事での労働時間が大きく影響している。非常に長い労働時間で働いていた若年労働者が再就職を考える際に、健康への不安を抱くことで求職活動の足かせになっている可能性が示唆

		・20～34 歳 ・現在フルタイムの仕事をしておらず、フルタイムの就業経験も無い ・フルタイムの求職意向が無く、求職活動も行っていない(アルバイトをしている場合、月収10 万円以下)、ただしいわゆる引きこもりは含まない)	インタビュー (9人)	・多くの調査対象者は、家族との繋がりが表層的で希薄であった。 ・悩みを相談できるような友人の不在である。 ・概ね、現状に強い不満がないことである。欲がなく、全般的に「感情が薄い」 ・社会に対する関心も極めて薄かった。第一に、社会の仕組みに無頓着で、年金や社会保険等、くらしと経済に関する知識や意識が希薄で、親が食費や携帯使用料等を負担しており、自立独立にかかる費用の見当がつかず金銭感覚にも疎いケースが圧倒的に多かった。 ・仕事に関する知識に乏しい、もしくは偏りが見られ、働く意味や喜びについて多面的に捉えていない。
--	--	--	------------------------	--

「非正規・単身・子どもを持たない・中年」 女性の「見えない」困難



花房 吾早子
朝日新聞社 大阪本社
社会部記者

すてっぷでは、現在豊中市のシングル女性の仕事と暮らしをテーマに、調査・研究を進めています。現在女性活躍が国によって推進されていますが、そのイメージからこぼれ落ちる女性たち、それが「非正規・単身・子どもを持たない・中年」の女性たちです。今回寄稿いただいた花房吾早子さんは、取材を通して様々な女性たちの声を私たちに伝えてくれています。

■ 偏った「女性」像

「女性管理職の増員」「待機児童の解消」「マタハラ防止」……。連日のように「女性」にまつわる課題が報じられています。見聞きするたび、違和感を募らせてきました。

かつては今より、「女性」という一点で団結し、問題を共有しやすかったかもしれません。今は同じ会社に属していても、正規か非正規か、既婚か未婚か、子どもがいるか、介護をしているかなどによって課題が違う。仲間意識を持ちづらくなっているように思います。

そこで登場した「女性活躍推進」。仕事も結婚も出産もと、「活躍せよ」とせかすように聞こえます。ここでイメージされる女性像からこぼれ落ちる女性たち、それが「非正規・単身・子どもを持たない・中年」の女性たちです。

■ 重なる困難

一昨年、「女女格差」をテーマに取材班を立ち上げました。社会が求めるイメージに合致して優遇されていく女性と、その枠にはまらず恩恵を受けられない女性。その格差が広がっているのではないかと。親友に話すと、メールが返ってきました。

「産休・育休を取って働く権利は保障されるべきだけど、彼女たちが休む間、非正規の私たちが代わりに働いて、同じ仕事なのに交通費も賞与もなく、復帰と同時に切られる。こういうことも知ってほしい」

彼女は 42 歳。大学卒業後、正社員として2年

半ほど勤め、母の看病をするため退職。再び働き始めてから非正規職を続け、ひとりで暮らしています。今の職場で4カ所目。長くて3年、短いと数カ月で仕事が変わります。父は定年退職して10年余り。今は元気ですが、いつ具合が悪くなってもおかしくない年齢です。彼女はひとりっこだ、親族は近くにいません。「父の介護で私が仕事を辞めることになったら？ 経済的な不安、社会から隔絶される不安がある」

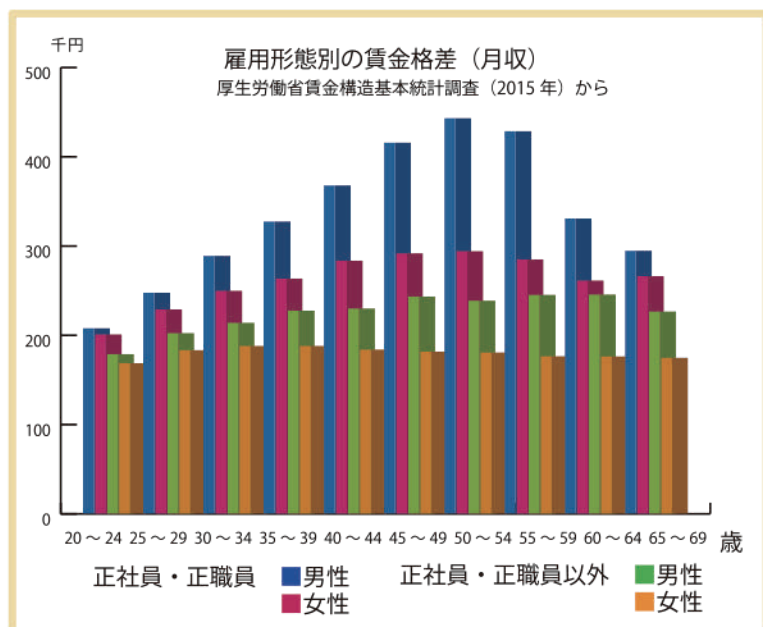
そんな彼女から「横浜市男女共同参画推進協会のアンケートに答えた」と連絡がありました。非正規で働き、独身で子どものいない、35～54歳の女性を対象に、年収や雇用期間、現在や将来の悩みを尋ねる調査です。

周りから結婚・出産の圧力を受け、親族から介護の担い手を期待され、人手不足・人件費抑制の進む労働現場を支える「非正規・単身・子どもを持たない・中年」の女性たち。年を重ねるほど求人は減り、昇給もまれ。困窮しても、公営住宅の入居や家賃補助の条件を満たしにくい。短期間で職場を変わったり、同世代は結婚・出産や仕事の昇進などで環境が異なったりと、悩みを共有できる人間関係を築けずにいます。

これまで光の当たらなかった実態が、調査を通して明らかになりました。

■ 『見えない』女性たち

「非正規の女性」と聞くと、将来結婚して夫に養われる若い女性か、夫の収入を補うために働く主



婦を想像しがち。いずれも、女性が自分ひとりの収入で生きることを想定していません。「独身の中年女性」と聞けば、正社員でキャリアを積み、時間やお金に余裕のある印象。実際は、どちらのイメージにもあてはまらない女性たちがいます。

非婚・子どもを持たない人生を選ぶ人は増えているし、家庭に入りたくても、男性も非正規化が進み、「正社員の夫と専業主婦の妻」という高度経済成長期以降のモデルは崩れています。

しかし、いまだ賃金や社会保障の体系は「男性稼ぎ主」が前提。非正規の男性は「妻子を養えない」と問題視されても、女性の場合は「結婚すれば解決する」と見なされてきました。

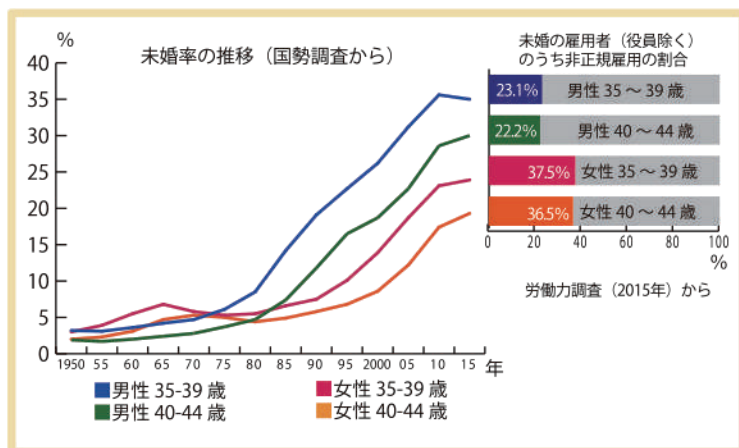
行政が支援の対象として優先するのは、DVや性暴力の被害者、シングルマザー。もちろん支援が必要ですが、わかりにくい困難は置き去りにされがち。私たちメディアの取り上げ方も同じです。女性誌も「専業主婦」「バリキャリ」「ワーママ」を狙ったものばかりです。

朝日新聞では昨年、公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会の調査とそれを受けた支援のあり方を報じ、さらに広い紙面で「『見えない』女性たち」と題し掲載しました。「まさに私」と切実な体験が寄せられた一方、「自分が選んだことは自分の責任だ」という指摘もありました。

取材した女性たちの多くは、就職氷河期で正規職になれなかったり、病や介護で正規職を離れざるを得なかったり、自分の意思を越えた要因で、非正規職を続けていました。外国語、簿記、社会福祉士など、勉強に励んで資格を得た人もいます。「自己責任」との切り捨ては乱暴だし、仮に積極的に選んだ道だとしても、現にある困難を放置してよいのでしょうか。

社会の問題と認識されず、支援の対象と位置づけられなければ、当事者は声を上げづらい。見えないのはいないからではなく、社会が見ようとしていないからではないでしょうか。

本来、生き方は多様です。性別、世代、雇用形態の違いや家族の有無によって、受けられる社会保障に過度な差が出るべきではないはずです。夫婦や家族といった特定の枠組みしか想定していない制度に対し、一つひとつ疑問を投げかけていきたいです。



花房 吾早子（はなふさ あさこ）プロフィール

1984年、千葉県生まれ。2008年、朝日新聞社入社。徳島総局で事件事故、高校野球、徳島市政などを担当。長崎総局で県政、原爆被爆者などを主に取材。13年4月から大阪本社社会部。大阪市内の警察署の担当をへて、平和・人権の担当として戦争体験者、性的少数者、障害者、女性といった分野に関心を持ってきた。昨年5月から大阪市役所を担当。現在、市営地下鉄・バスの民営化を中心に、行政課題について取材している。

毎日がしんどい女子の 気持ちを伝えるミニレッスン

自分の気持ちを伝えるのも相手の気持ちを受け止めるのも、とってもむずかしい。

「友だちに本音をいったら嫌われそう」「仕事仲間には何いってもムダだから黙っとこう」
「ほんとはイヤなのに『うん』っていい顔しちゃった」「自分がガマンした方が楽」
「お母さんと話すと最後はケンカになっちゃう」「私の中って悪い感情ばかり」

そんなあなたに“自分も相手も大切にしつつ素直に気持ちを伝える”
ための ミニレッスンを開きます。
ムリに背のびをしなくても大丈夫。
明日から試してみたくなるヒントがたくさんあります。

無料



日時:5月29日(日) 13:00~15:00

場所:すてっぷ セミナー室2(エトレ豊中ビル5階)

講師:金香百合(HEALホリスティック教育実践研究所 所長)

対象:39歳くらいまでの未婚女性(シングルマザーはのぞく)

定員:15人(電話・FAX・メール・Webフォーム・来館で先着順に受付)

注)上記「対象」の記載を、2017年度は「39歳くらいまでの子どものいない独身女性」という表現に変更しています。



講師:金香百合

(HEALホリスティック教育実践研究所 所長)

在日韓国朝鮮人三世として大阪に生まれ育つ。
大学卒業後に財団法人大阪YWCAに就職。
そこでの働きをとおして、平和教育、人権教育、
子ども、女性、障がい者、高齢者、外国人、国
際協力、異文化理解、ボランティア、企画力、
ジェンダー、心のケア、生と死などの多様な問
題に出会い、取り組んできた。

<担当者より>

昨年の『自分とうまくつきあうミニレッスン』に引き続き来ていただきます！ 前は先生の経験を交えながら、喪失や回復についてみんなでお話をしました。「あるがままの自分が大切」がライフワークの笑顔がステキな先生です。

主催:とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ

(指定管理者) 一般財団法人とよなか男女共同参画推進財団

申込み・問い合わせは すてっぷ まで <水曜休館>

〒560-0026 豊中市玉井町1-1-1-501

電話:06-6844-9773

FAX:06-6844-9706

メール:kouza@toyonaka-step.jp

<http://www.toyonaka-step.jp/>



<申込みWebフォーム>

<https://ssl.form-mailer.jp/fms/O43f413c401454>





毎日がしんどうい女子の アロマでリラックス

緊張を緩めたり、寝つきをよくしたり、肩こりを和らげたり、アロマはいろんな形で私たちを応援してくれます。6月の「毎日がしんどうい女子セミナー」ではアロマセラピーの基本的な使い方を学びます。

実際にアロマオイルをブレンドしてアロマスプレーづくりも体験。

アロマスプレーならカバンに入れて「わたしの香り」を持ち歩くことだってできます。

道具をたくさんそろえなくてもアロマは楽しめますよ！

＜担当者より＞

先生に教えてもらって寝る時にアロマを使ってます。その日の気分で好きな香りが違うのにビックリ。ぜひ自分の香りを探しに来てください♪

日 時: 6月26日(日) 13:00～14:30

場 所: すてっぷ セミナー室2 (エトレ豊中ビル5階)

講 師: 田中由美 (AEAJ認定アロマセラピーインストラクター・AEAJ認定アロマセラピスト)

費 用: 500円(材料費)

対 象: 39歳くらいまでの未婚女性(シングルマザーはのぞく)

定 員: 15人(先着順)

注) 上記「対象」の記載を、2017年度は「39歳くらいまでの子どものいない独身女性」という表現に変更しています。

申込み: 電話・FAX・メール・Webフォーム・来館で5月30日(月)10:00から受付。
「気持ちを伝えるミニレッスン」参加者を優先受付。

毎日がしんどうい女子の 気持ちを伝える ミニレッスン

日時: 5月29日(日) 13:00～15:00

講師: 金香百合 (HEALホリスティック教育実践研究所 所長)

対象: 39歳くらいまでの未婚女性(シングルマザーはのぞく)

費用: 無料

自分の気持ちを伝えるのも相手の気持ちを受け止めるのも、とってもむずかしい。そんなあなたに“自分も相手も大切にしつつ素直に気持ちを伝える”ための ミニレッスンを開きます。ムリに背のびをしなくても大丈夫。明日から試してみたくなるヒントがたくさんあります。

主催: とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ
(指定管理者) 一般財団法人とよなか男女共同参画推進財団

申込み・問い合わせは すてっぷ まで <水曜休館>

〒560-0026 豊中市玉井町1-1-1-501

電話: 06-6844-9773

FAX: 06-6844-9706

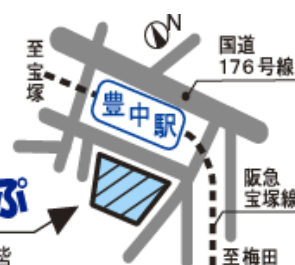
メール: kouza@toyonaka-step.jp

<http://www.toyonaka-step.jp/>



<申込みフォーム>

<https://ssl.form-mailer.jp/fms/725fc641429721>



おとな女子服交換会 運営メンバー募集

毎日がしんどい女子の集まり「おとなGirls部(仮)」が
イベント「おとな女子服交換会」実施に向けて本格始動します！

＜顔合わせ日＞

10月23日(日)

14:00～16:00

とよなか国際交流センター
会議室1(エトレ豊中6階)

今決まっているのは、「家で眠っている服を持ち寄って交換するイベントを3月頃する」ということだけ。

後のことは集まったメンバーでいっしょに作っていきます。
いつも同じことばかりの毎日にちょっとした変化をつけてみたい人、何か新しいことを始めてみたい人、イベント運営に参加してみませんか？

＜申込み＞

電話、来館、FAX、メール、
Webフォームで受付
10月21日(金)15:00締切

名前、住所、電話番号、年齢を
お知らせください。

＜募集対象＞

**39歳くらいまでの
独身女性**
(シングルマザーはのぞく)

注)上記「募集対象」の記載を、2017年度は
「39歳くらいまでの子どものいない独身
女性」という表現に変更しています。

「おとなGirls部(仮)」は仕事や
生活で毎日がちょっぴりしんどい
女子が集まる部活動です。



主催:とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ
(指定管理者) 一般財団法人とよなか男女共同参画推進財団

申込み・問い合わせは すてっぷ まで <水曜休館>

〒560-0026 豊中市玉井町1-1-1-501

電話: 06-6844-9773

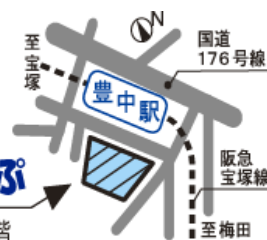
FAX: 06-6844-9706

メール: kouza@toyonaka-step.jp

<http://www.toyonaka-step.jp/>



とよなかすてっぷ
エトレ豊中ビル・5階



＜申込みWebフォーム＞

<https://ssl.form-mailer.jp/fms/bfa0f0f2457604>